

県北 どらくろあ

第16号 2017年7月1日（毎月1日発行）

「みんな同じ命だから」エピソード①

大作さんとまいちゃん（庄原市東本町）

「施設に引き取られる犬や猫が一匹もいなくなればいいと思います」 間がかかる。

「きっぱりとした口調で、大谷京子さんが言った。「みんな同じ命だから」という写真展を開くようになって十二年になる。今年の四月に庄原市役所ロビーで開催された写真展が五回目。写真も、それに沿えるエピソードも、新しく用意するので準備にはとても時

大谷さんが写真展を開催するきっかけとなった、あるグループの企画展では、最初に猫の写真だけだった。残酷なシーンは、かわいそうだという感情には訴えるが、それだけだと殺伐として後味が悪い。幸せになった子の写真やエピソードを合わせて紹介すれば、飼い主の、そしてこれから犬

や猫を飼おうとしている人たちの心に、強く響くのではないか。こんな飼い主になりたい。自分の家族として、最後まで一緒に暮らしたい。そんな想いを抱いてくれるのではないか。そんな願いのこもったエピソードを、四月の大谷さんの写真展の中から紹介させていただく。

濱野大作さんがまいちゃんとお会ったのは、仕事中心のことであった。仕事仲間が数人いたが、濱野さんのところを指してやってきた。ガリガリに痩せて元気がない。飼い主が見つかるまで、友人宅に保護してもらった。

迷子犬の様子を見に行くと、濱野さんの姿を見て尻尾をぶんぶん振って喜んだ。その頭を撫でてあげながら、濱野さんは自宅に引き取ることを決意した。

まいちゃんは、最初は食べ物もなかなか食べようとしなかった。山の中を放浪中に、何か悪いものでも食べたのだろうか。濱野さんがドッグフードを食べる真似や実際に口に入れて見せると、ようやく食

べ始めた。夜中によく鳴いていたが、濱野さんが一緒に寝てあげると、安心して眠った。まいちゃんを引き取って一カ月ぐらいした頃だろうか。地元のお祭りにまいちゃんを連れて行った。まいちゃんの姿をじっとみているおじいさんがいる。おじいさんの目から、涙が溢れだした。

濱野さんが声をかけると、うちの犬だという。世話をしていたおばあさんが亡くなった、どうしていいかわからず、山の向こうに捨ててきたのだそうだ。

まいちゃんは、おじいさんの姿を見ても、警戒したように近づこうとはしなかった。捨てられたときの恐怖心が残っているのだろうか。もともおばあさんの方が犬好きで、おじいさんはまったく面倒をみていなかったのかもしれない。それで困って捨ててしまったのだろうか。



濱野さんにとっても、まいちゃんとお過ごした日々の思い出は、かけがえない宝物なのだ。

平成二十三年、広島県にとって不名誉な記録が環境省より発表された。犬の殺処分数が二三四二匹、猫の殺処分数が五九九八匹、合計の殺処分数が八三四〇匹と、全国の都道府県別でワースト1になってしまったのだ。

それが契機となって、県内で本格的な保護活動が活発になり、現在は殺処分ゼロの状態が続いている。広島県動物愛護センターへの電話取材で、犬の殺処分は昨年四月から、猫の殺処分は昨年の八月から、県内では実施していないとの回答を得た。ただし、病気や怪我で回復不能の個体は注射による安楽死を選択するケースもあるという。

殺処分ゼロは、神石高原町のNPO法人「ピースウインズ・ジャパン」(PWJ)やNPO法人「犬猫みなしご救援隊」が、自治体の保護収容施設から一括して犬と猫を引き取ることによって実現した。しかし、これから先、こうしたNPO法人のキャパシティを超える事態になれば、公共施設に残される犬や猫は、最終的には殺処分されることになる。また、NPO法人の活動の透明性を保つことも課題である。

図書館員ノート ⑪

「ぜんぶ私の呼び名」

夕方四時、学校を終えた子どもたちの声が飛び込んでくる。

「さやっちのオススメ本、続きを予約する！」

「なっちゃん、パソコンしていい？」
「きのこちゃん」、「先生！」……
……これ、ぜんぶ私の呼び名です。



もうすぐ、吉舎図書館に異動をしてきて二年目の夏がやってくる。

去年の夏休み。最初は、子どもたちも初めて見る顔の私に戸惑い、緊張した面持ちでいた。

「あれ？初めて見る人だ……」（質問したそう……）

「本探すの、手伝おうか？」

一言声をかけた。途端に緊張が解けたようだった（よかった）。その一言で、周りの子どもたちも私と話をするキツカケを掴んだようだった。

図書館をよく利用する子が、あまり本を読まない子を図書館に連れてきてくれたこともあった。子どもたちの中で図書館という場所が、改めて大きな存在になったようだった。そして、話をたくさんするうちに、図書館に居る人は割と「話せるオトナだ」ということもわかってくれたらしい（笑）。

今では「みんなには内緒なだけど……好きな人と両想いになる

本貸して」など、なんともかわいらしく、そして難題な本探しに奔走することもある。そんな大事なことでまで打ち明けてくれる。その信頼に、どうにか応えたいと感じる夕方四時。

そして、最初の私の呼び名の種明かし……。

「さやっち」は、私の名前。名前の最後に「ち」を付けて呼ぶのが、最近かわいらしい。

「きのこちゃん」は、本の展示の準備のために作っていたきのこから。「なっちゃん」は、断じて似てないと心から強く思うのだが、芸人の横澤夏子に似ているとかいないとか。この原稿を書く二週間前、髪を十五センチ近くバッサリ切った。これで横澤夏子似疑惑は晴れるだろう。

今年の夏休みももうすぐ始まる。今年は、どんな新しい友だちが増えるのだろうか。そして、どんな呼び名を付けてくれるのか。今から楽しみである。

パール・バック『大地』 —— 中国大陸に託した人間抒情詩

19世紀後半から20世紀の初頭の、胎動する大陸中国を舞台に描いたパール・バックの『大地』（新潮社文庫・全4冊）は、人間の一大抒情詩のように思えてなりません。日本で言えば、幕末から大正時代に相当します。人びとの必死な生き方を「抒情詩」にたとえるのは不遜かもしれませんが、それでも、死屍累々の歴史を重ねた、広漠とした中国大陸だからこそその正直な感慨なのです。

大地主と奴隷、それに男尊女卑。小説は封建中国の因習の中で、主人公の貧農・王龍（ワンロン）は、地主黄家の奴隷・阿蘭（アーラン）を黄家からもらい受けて妻にします。阿蘭は無口で、働きの者でした。2人は土地を増やします。

が、大洪水に遭って田を失い、町に出ます。揚子江河口付近のその町でどん底の生活を送るうちに、戦争に巻き込まれ、砲弾にあたった金持ちの家で銀貨を手に入れ、これを引きつかけに再び土地を買います。この出来事は、太平天国の動乱期だと思われました。王龍たちは、地主の黄

家の土地も買い取るまでの富豪になります。

農民然とした阿蘭は、王龍に影の

また読んでみたい本①⑥

青年たちに

音谷 健郎



【大地 表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

第16回は、パール・バックの『大地』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

す。王龍の死期が迫った日、長男、次男は土地を売る相談をするのです……。

末の息子が兵隊になると聞いて王龍は驚愕します。革命か、聞いたことがあつたが、忙しかったので気にも止めなかつた、と言う王龍の前に辛

す。その経験を生かしたこの小説は1931年、米国出版されました。中国では軍閥が力を持ち、欧米諸国や日本が利権を求めて進出していた時代です。

気をよくした彼女は、第2部「息子たち」、第3部「分裂せる家」と書き継ぎます。3人の息子は大商人や地主、將軍になり、さらにその子ども世代が革命運動に身を投じます。親子、孫の3代にわたる大河小説なのです。3部作を合わせた『大地』でノーベル文学賞を受賞しました。『大地』のスケールの大きな動きに、日本との違いを感じたものです。

私の少年・青年時代は携帯もスマホもなかつたので、みんなよく本を読んでいた。長編小説では、欧米の作品の人氣が圧倒的でしたが、私は『大地』との出会いがきっかけになったのか、東洋の本に惹かれるようになりました。

ように従い病没しますが、私は阿蘭の控えめな賢さに魅了されました。一方、王龍は茶館通いをはじめ、阿蘭の他に妻をめとります。その後、イナゴの大群に襲われたり、洪水、飢饉に見舞われたり。3人の息子は強く希望して学校に行き、成長しま

亥革命による新しい時代が迫ってきます。視点を変えようと、「人は死んでも土地は残る」と土地にしがみついて生きてきた王龍の時代が、終わろうとしているのでした。作者パールは、熱心な宣教師を父に持ち、中国に育ち中国で暮らしま

阿蘭は中国のどこかで、今も生き続

虫と草木と人びとと④ 中村慎吾

「カメムシ方言考」後編

ハットウジの語源とされている八塔寺は、兵庫県境に近い岡山県吉永町にある天台宗の寺院、照鏡山八塔寺で、この寺は奈良時代に聖武天皇の勅願によって建立されたと伝えられている由緒ある寺である。一五一

七年（永正十四年）四月の火災で全焼し、その後、戦火の中で衰退したが、一五五九年（文禄四年）に、宇喜多秀家が寺領を寄進し、岡山藩主池田忠雄が伽藍を復興するなど、岡山藩の庇護によって維持されて今日に及



下帝釈峽犬瀬のニシキキンカメムシ（故・小川光昭撮影）

※ニシキキンカメムシは、和名の「錦」にふさわしい日本で最も美しいカメムシ。広島県内では、帝釈峽に限って分布している。

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

ぶ古刹である。

私信にある「寺領を失い 困窮した寺僧たちは近辺の山中より薬草を採取し 近隣諸国へ売りさばいた」と同様な記述は、「岡山県の地名」（平凡社、一九八二年）の八塔寺村の項にあり「明治四年（一八七一年）の廃藩によって寺領が没収された。僧は薬草を売り歩き寺の運営をまかされた」と記されているから、寺僧が薬草を売り歩いたことは間違いない。しかし、明治初年までには既にハットウジという方言が山口県を除く中国四県で使われているから、明治四年の廃藩で八塔寺が困窮する以前、中世末期、八塔寺が衰退した時代に遡って考えると矛盾はなくなるが、この事実を裏づけるものはない。

ハットウジの語源については別の解釈がある。広瀬繁登はハットウジのジを寺とする前提に立って「方言

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

ハットウジ 逆の呼称によって悪いものから逃れたり 祟りを避けたりしたいという共通の民俗的手法から考えると、ハットウジなる寺院起源説は十分考えられる。漢字にすると法塔寺であり、特定の寺の名前ではなく法塔のある立派な寺の意。庄原市上原町にハトウザキなる地名がある。はとう・ハットウ・ハットウジは『神さま・仏さま』と同様な用法がなされたのではあるまいか」という。この解釈は、特定しない霊験あらたかな寺院に民俗学思考様式が重なり、たまたま、法塔寺を仮託することによってイネクロカメムシなどカメムシ類の害を封ずるということから生れた方言と考えられる。

三重県度会郡に残るガミヨウジも、ジを寺と考えると、ガミヨウジという特定の寺院があるか、どうかは別として、この方言もハットウジと同じ系統の方言と考えても差し支

えないといえる。

庄原市西城町で、眠そうな活気のない目を「ハットウジが巣をかけたような目」という。また、庄原市掛田町では活気のないシヨボシヨボした目を「ハットウジが吸うたような目」という。巣をかけたようなという表現は生態から考えて気になるが、いずれにせよ、カメムシが植物の若茎、葉、果実を吸汁すると、葉がしおれたり、果実は萎縮したりする。また、稲の場合は開花十五日後ごろに穂が吸汁されると著しいダメージを受けることを農民はよく知っていて、このような表現が生れたのであろう。

カメムシが多いと大雪になる（山形県長井市・西置賜郡）、クサムシが家に入ると家が栄える（石川県世尾市）などカメムシの方言・表現・比喻の中にも民俗が秘められているようで興味は尽きない。しかし、これらのことからは急速に消えつつある。

※県北になじみのある「ハットウジ」という方言に関連した文章だけ、抜粋して転載させていただきました。

特別寄稿・元原汎司

「手塚治虫と庄原ピラミッド」

一九七九年（昭和五十四年）、NHKから庄原市へ、手塚治虫氏を「庄原ピラミッド」に案内してほしいと依頼がありました。当時の市の教育委員会社会教育課にいた私と若い同僚に、その案内の役目をいただきました。

「庄原ピラミッド」と呼ばれる山は、標高八百十五メートルの三角形のピラミッドの形をした山です。山頂には、巨石群があり、古代遺跡

ではないかと昔から語り継がれてきました。

また、「庄原ピラミッド」の東に帝釈峡があり、広島大学による古代遺跡の発掘調査が行われ、話題になっていくと記憶しています。

手塚さんは、「庄原ピラミッド」と帝釈峡を結んで、古代人の物語をラジオドラマ（題名は「太陽の石」にしたという思いから現地を見たいとのことでした。

行き、そこから細い山道を登ります。山頂までは、当時健脚の人でも約一時間かかりました。

町中では雪はなくても山では残っており、足元は雪と落ち葉で歩きにくい道でした。手塚さんは運動不足のようで、とてもしんどいようでした。

一時間ぐらい歩き「庄原ピラミッド」の手前まで来て、手塚さんは、「もうこれ以上歩けない」と言われ立ち止まっていたところ、これまで霧が立ち込め全く視界がきかなかったのが、さっと消えて目の前に三角形の「庄原ピラミッド」が姿を現しました。一瞬声を出すのも忘れて山を見つめました。奇跡が起きたような気がしました。

さあ、もうひと頑張りです、と声をかけましたが、手塚さんは、「もうここでよい、この姿を見たので満足です」と言われ、山頂へ登ることは止めて引き返しました。

その後、NHKから作品づくりの呼んでいただきました。そのとき、の俳優さんが、庄原出身の作家、倉田百三氏の息子さんと、倉田地三さんでした。今思い返しても、不思議なご縁だと思います。



しかし、時期は一月でした。この季節の県北庄原は雪が降り、山へ入るのは猟師ぐらいです。それでも出来れば行きたいとの希望で、冬空の中、長靴、アノラックに身をかためて出発しました。

幸い、これまで多かった雪も当日は殆んどなくなっていました。途中まで車で

「もうおよしになったほうがええで
がんです。体に毒だで」

聞こえないのがわかっていても、
茂平はそう声をかけずにはいられな
かった。机の上には空の銚子が並ん
でいる。もうこれだけのみましたよ
とわからせるために、わざと下げな
いでおいたのだ。

髭面に蓬髪の浪人が、血走った酔
眼で睨んだ。赫鼻にひび割れた唇、
荒んだ生活が残滓のように顔にこび
りついている。若侍の頃は評判の美
男子だったという面影は微塵もな
い。

浪人が銚子を持って茂平に突き出
した。逆さにして振って、空だとい
うことを訴える。

茂平はかぶりを振った。浪人の姉
の千勢から、あまりのませないでほ
しいと頼まれていた。酒代のツケも
嵩んでいた。それを千勢に云うのも
心苦しい。

浪人が銚子を土間にたたきつけ
た。腰に差している刀が竹みつだど
いうことがわかっていても、茂平は
恐怖で身を竦（すく）ませた。

浪人が立ちあがった。壁に立てか
けてあった釣り竿を杖代わりにし
て、右足を引きずるようにして店の
外に出て行った。まだ未の刻（午後

二時ぐらい）だが、梅雨時の厚い雲
が空を覆って薄暗い。

「ひでえ侍だな」

遅い昼食を摂っていた行商人風の
男が、いたわるように茂平に声をか
けた。

「お気の毒な身の上なんだから。元
は赤穂のお侍だったんでがんです
……」

「忠臣蔵異聞」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑮

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

余計なことをしゃべってしまった
と茂平は口をつぐんで、土間に散乱
した銚子の欠片を拾い始めた。

浪人の姿は河原にあった。どこで
調達してきたか、大きな瓢箪（ふくべ）
を口に運んでぐびりとやりながら、
釣り糸を垂れている。

走って来る足音がした。百姓の娘

だろうか。齢の頃は十四、五、貧し
い身なりをしているが、勝気な顔は
色白で、はつとするほど整っている。
追って来たのは、茂助の店にいた行
商人風の男だ。

「逃げてでも無駄だ。お前は売られたん
だ。帰る家はもうねえ。金は払って
るんだ。それでもお前が嫌だという
のなら、妹のおくにを代りに連れて
行く」

男が娘の手を掴んだ。娘はそれを
振りほどくと、助けを求めるように
浪人の体にしがみついた。子猫のよ
うに体が震えている。

「お待さん、勘違いはしないでくだせ
えね。あつしらは、人助けをしてい
るんでさあ。このあぐりという娘の
家には五人の子供がいる。父親は中
気（脳卒中）で長患い。貧乏百姓で
満足に飯も食えねえ。この子が素直
においらについてくれば、一人食い
扶持が減って金が入る。あぐりもう
まいもんが食えてきれいなべべ（着
物）が着られる。みんなが幸せにな
るんでさあ」

浪人に、というよりは、娘に言い
含めているような口ぶりだった。

「さあ、こっちに来い！」
男が怒鳴ると、娘が渋々立ちあ
がった。うなだれたように男に近寄
る。

「手間をかけやがって」
男の平手が飛んで、派手な音を立
てた。腫れあがった頬をおさえて、
堰が切れたように娘が泣きだした。
唇の端が切れている。

浪人がムクリと立ちあがった。男
の顔に緊張が走る。しかし、浪人は
振り返りもせずに、持っている竿を
一気に引き上げた。釣り糸の先には
鮠（ハヤ）が身を躍らせている。
「なんでい、おどかしやがって」

男は吐き捨てるように言って、娘
の手を引いて立ち去った。

（猿芝居をしておつて）
魚を魚籠（びく）に入れながら、
浪人がニヤリと笑った。
（やはり、探りに来たか。商売もの



の顔に手を出す女術がおるものか。それにあの娘の匂い……)

おぼこ娘の匂いではなかった。男を知り尽くした年増の匂いだ。

浪人が瓢箪を取り上げてぐびりとんだ。中には酔い覚ましの水が入っている。

(それにしてもあの顔は……)

心の奥の瘡蓋がひび割れて、押し殺していた恋情が疼いた。死ぬしかないのだと強く思った。大願を成就して、武士(もののみ)としてわしは死ぬ。

備後国三次藩の閑所に向かう街道を、ふたり連れが歩いている。

「ありや、芯まで酒で腐ってますね。山鹿流奥義免許を持つ腕を持ちながら、娘っ子一人助けることができないうんですからね」

あの女術の男である。夜目が利くので、夜助と呼ばれている。

もう一人は雲水姿の僧侶。男にしか見えないが、くノ一、女忍者の装である。百化けのおもん、顔の筋肉を自在に操作して、老若男女、どんな顔も作り出せる。

「何か気になることがあるんですかい」

黙したままのおもんに声をかけた。

「いや、なんでもない」

声まで男だ。気になっていることがあった。菅谷半之丞(はんのじょう)は、耳が聞こえないはずだった。

しかし、あのときは、黙って夜助の話聞いていた。聞こえないならば、違う反応をするのではないか。それとも、端から係り合う気がなかったか。

それに、あの魚。釣り針にかかった魚を外す動作に、酔いの気配はなかった。

「帰りに京都に寄るよ」

今度は女の声だ。もう一度、大石内蔵助の動静を探るつもりだった。

夜助がにやけた顔をした。また祇園の遊郭に行けると思っている。下人の忍のくせに、根っからの女好きなのだ。

その後、三次藩から忽然と姿を消した菅谷半之丞は、京都の伏見に潜伏して、大石内蔵助と行動を共にする。沈着冷静な人柄で、内蔵助の側近として参謀役を担った。

半之丞が立ち去った三次の住居には、酒代のための借財や店へのツケが克明に記載された書置きと、その返済のための金子が取り揃えてあったという。

※この物語はフィクションです。名称等も創作した箇所があります。

【鳳源寺】三次市にある臨済宗妙心寺派の寺。赤穂浪士ゆかりの寺として知られ、播州赤穂藩主、浅野内匠頭長矩の正室で、三次浅野家出身の阿久利姫(瑤泉院)の遺髪塔や、赤穂浪士四十七人の出立の姿を模した木像を安置する義士堂がある。瑤泉院の像は一九九九年に建立され、義士堂に向かって合掌している。

まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL：090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「狼の群れと暮らした男」

ショーン・エリス+ペニー・ジューノ著 築地書館

単身、野生の狼の群れに入り込んで、グループの一員として暮らした男の体験談。人間らしさをすべて捨て、狼と同じ生肉を食べ、群れの掟に従うことで仲間として認められた。狼はすべて役割を持って生まれてくるという「発見」が新鮮だった。群れを率いる首領、用心棒、品質管理担当……、役割ごとに子育ての方法が違うのだという。これは、狼と似た性質を持つ犬にも当てはまる。



著者の一人、ショーン・エリスは、母国イギリスで自然動物園を本拠に狼を養育しながら、野生狼の復活と人間との共生を夢見ている。様々な障害が出てくるが、それは、破壊した自然の再生がいかに困難かを物語っている。

「Aではない君と」

薬丸岳 著 講談社

少年A、未成年の犯罪者に対してマスコミが使用する仮称である。少年Aのニュースを見て、もしわが子が少年Aだったらと想像したことがあるだろうか？ そのまさかの出来事が起こった家族の物語。

仕事も順調、部下の若い女性との再婚話も進んでいる。そんな吉永圭一の職場に刑事が現れる。やがて、前妻と暮らしている中学生の息子が、同級生を殺害した容疑者として逮捕。記者やレポーターに追い回され、無実を信じている息子は原因不明の黙秘を続けている。現代の世相を反映したやるせない事件だが、少年の、そして親子の再生の物語でもある。第37回吉川英治文学新人賞受賞作品。



「しゃべれどもしゃべれども」

佐藤多佳子 著 新潮社

今昔亭三つ葉は二ツ目の断家だ。ひょんなことから、自宅で落語教室をやる羽目になる。対人恐怖症で吃音に悩んでいる従弟のテニスコーチ、口下手で失恋ばかりしている女、関西弁に固執して転校先でいじめに遭っている小学生、あがり症でマイクの前では無口になる元プロ野球選手。一癖もふた癖もある連中が、一筋の光明を求めて三つ葉のもとに通ってくる。三つ葉自身も、師匠のモノマネではない自分の落語を求めて苦闘している。



人との関りは煩わしい。しゃべることが苦手な人間は、気持ちばかりが空回り。そんな世知辛い世の中を、人情という座布団でほんわかとするんだ作者の「話芸」はさすがである。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

※投句を歓迎します。

二番子の頭が三つ朝日射す

近藤昌平

(飛来した燕は夏にかけて、一番子二番子と普通は二回雛を育てます)

オリーブが棲みか居眠り雨蛙

原博己

いくさ無き七十四年麦の秋

片岡正人

お遍路が満願となり梅雨に入る

隆愚

雨が好きと言った女^{ひと}あり傘がない

赤川冬人

投稿&寄稿

「笹百合」

富久光

昼でも仄暗い木立の中に

珍しく笹百合が一輪咲いていた

まさかこんな所に目を疑った

不自然でもあり

寂しそうでもあり

幾分微笑んでいるかのようにもあつた

それは嘗て晩年を過ごした

美知叔母さんの住まいの跡地から

僅か二十メートルばかりの離れた場

所だ

六十年前其処は樹木一本無かった

あの頃は日当たりの良い傾斜地だつた

た

今同じ場所に

幽玄そのままに咲いている笹百合

あの頃は木立とは無縁の草地

点々と笹百合も咲いていた

野草の宝庫でもあつた

明るくて見晴らしがよく

風も爽やかに吹き和んでいた

近くに美知叔母さんが独りで住んでいた

「雨男」

M・A

少し前の読売新聞の「編集手帳」に、梅雨入りに関連したことが書いてあった。「絶対的雨男」を自認したのは随筆家の江國滋で、雑誌の連載企画で二年間、毎月旅行に出て、二十四回のうち二十一回が普通の雨、残る三回は雪、雪、集中豪雨だったという。

傘は無用と豪語する「絶対的晴れ男」だったのが作家の池波正太郎。さて、この二人が連れ立って北陸へ三日間の旅に出た。結果は初日が雨、二日目が快晴、最後の日が雨曇晴雨曇と安定せず、どちらも横綱なので空も軍配を迷ったか。

私のかつての旅行仲間にも、雨男だったのでは、という人物がいる。その人が企画した旅行はいつも雨に祟られていたイメージがある。そういえば、元広島カープの前田健太も、雨男を自認していた。

今年梅雨入り宣言をした途端、皮肉なことに快晴が続いている。降ってもちよぼちよぼ。おかげで三

次きんさいスタジアムではカープの交流戦が開催できたが、このまま空梅雨だと農作物に大きな被害が出る。

江國滋はすでに鬼籍に入っている。マエケンは大リーグのドジャースで奮戦中。久しぶりにあの友人に電話でもかけてみるか。世の中、晴れ男、晴れ女ばかりでも困るんだよな、などと、自分でもよくわからないことを呟いている。



今月のどらさん

絵・風太

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

- 一 硬式テニス参加者募集 一
- MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
- 場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
- 火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- 水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- 土曜日 (12:00 ~ 14:00)
- 連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

シモシュとあそぼ 音であそぼ

日時：7月7日(金) 19:00 ~ 20:00(開場 18:45)
会場：庄原市田園文化センター 2階
楽器も体も心も全部使って楽しむコンサート
鑑賞券 (4歳未満無料)：前売り 1,200円、当日 1,500円
※チケットはジョイフルで扱っています。
主催：WAKU×2 する感動を親子で味わう会
お問い合わせ：代表 石原春美 0824-73-0930

《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室 & 講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

ウクレレ演奏会 in ジョイフル

- ◆ 日時：7月9日(日) 14時スタート
- ◇ 会場：庄原ショッピングセンター「ジョイフル」2F 案内所前広場
- ◆ 演奏：ポレポレ 曲目：「茶色の小瓶」、「Over the Rainbow」etc...
- ◇ ひだまりカフェを練習拠点に集まったウクレレ仲間です。
- ◆ 演奏は30分程度、自由にご観覧ください。

編集後記

◇巻頭の「みんな同じ命だから」の取材をして、飼い主の方が犬や猫を家族同然に愛していることを実感しました。わたしも縁あって、ドラマという雌猫を飼いはじめて八カ月、最後まで一緒に生きる覚悟があるのかどうか、あらためて自問 & 反省しています。

◇どら書房でネット販売を始めたのですが、「日本全国が顧客」を実感。店内では絶対に売れないような専門書や変わった本がよく売れます。ネット販売は、今までの経験がまったく通用しない世界。どんな本が高く売れるのか、宝探しの楽しみがあります。

◇いよいよ本格的な夏がやってきますね。今年は夏休みを……、無理だな(苦笑)。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

九日市だより

出店者の紹介をさせていただきます。 買物&散策の参考にして下さい。
※最終頁の出店地図に掲載していない店は、 今月はお休みです。

- ◆ **すけあくろう** コーヒー、親鶏の塩焼き、自宅は音楽スナック（庄原市一木町）
- ◆ **ギャラリー三村** 古物、骨董、雑貨（広島市）
- ◆ **昭助!** 焼きそば、旬の野菜（庄原市市町）
- ◆ **とらぢ** キムチ、自宅は韓国料理（庄原市高町）
- ◆ **二八そば加工所** そばカリントウ、餅他（庄原市比和町）
- ◆ **手づくり工房アーミッシュ** シフォンケーキ、椎茸他（庄原市口和町）
- ◆ **佐藤食販** にぎりちくわ、野菜天他（福山市草戸町）
- ◆ **さだっさ** !旬の野菜、実留永山の醤油他（庄原市宮内町）
- ◆ **リトルマーメイド庄原店** 九日市サンド、パン他（庄原市中本町）
- ◆ **健康企画グループ** 東城の豆腐、寿司他（三次市甲奴町）
- ◆ **柳家(ナギンチ)** 押し花アート、野菜他（庄原市三日市町）
- ◆ **ハートワークカンパニー** 染物、アフリカ民芸布他（庄原市比和町）
- ◆ **郷屋** 木工品、まな板、盆他（尾道市因島土生町）
- ◆ **なかや** 古布の小物他（広島市） ◆ **くまさん** 衣類、雑貨他（三次市畠敷町）
- ◆ **工房アム** 創作額縁、アクリル絵他（広島市南区）
- ◆ **ちくちくハウス玉手箱** !布手芸品（庄原市川西町）
- ◆ **かぐや姫** 布手芸品（広島市安佐北区）! ◆ **宮川屋** !餅、麴、惣菜他（庄原市口和町）
- ◆ **やまのおみやげや** 木工品、かずら細工他（庄原市宮内町）
- ◆ **ママンドール** 手づくりドール、雑貨（三次市畠敷町）
- ◆ **ルームオブケイコ** トンボ玉、アクセサリー（庄原市口和町）
- ◆ **めだかの学校** 手芸品、野菜（三次市吉舎町）
- ◆ **花一** 盆栽、山野草他（岡山市北区） ◆ **砂田海産** 海産物、魚干物他（尾道市）
- ◆ **アパレルゴトー** 日田焼き杉下駄（福山市新市町）
- ◆ **タツミ矢** 衣類（福山市駅家町）! ◆ **開盛社** 姓名判断、印鑑、表札（呉市）
- ◆ **まなべ商事** タオル、肌着、靴下他（愛媛県今治市）
- ◆ **克国水産** 魚干物他（福山市鞆町）! ◆ **TSUBAME** 靴各種（福山市）
- ◆ **よりんさいコーナー** 地域包括支援センター、血圧測定、健康相談、介護相談
（庄原市高齢福祉課、市内老人介護施設合同）
- ◆ **吉備路花田FF** 旬の果物（岡山県総社市） ◆ **山本水産** 魚干物他（島根県浜田市）
- ◆ **庄の助栄泉** 自然薯入り蒸し饅頭（庄原市板橋町）
- ◆ **くんえん工房香豚** 豚燻製他（世羅郡世羅町）
- ◆ **ハナビラタケ広島販売** ハナビラタケ、麴他（庄原市実留町）
- ◆ **阿波屋刃物** 刃物他（島根県仁多郡奥出雲町）
- ◆ **田崎屋** 骨董、雑貨（広島市南区） ◆ **前場衣料** 作業衣類他（府中市上下町）
- ◆ **佐藤園芸** 花、鉢物（岡山県都窪郡早島町）
- ◆ **久代はなみずき** 山菜おこわ、餅他（庄原市東城町）
- ◆ **お福** 着物、古布、小物他（広島市東区）! ◆ **どんぐりーず** 焼き芋（庄原市東本町）
- ◆ **猫犬フリマ** 猫と犬のグッズ、衣料、雑貨（世羅郡世羅町）
- ◆ **細田漬物** 野菜各種の漬物（島根県雲南市大東町）
- ◆ **八銚自治振興区玉ネギ染め** 玉ネギ染め（スカーフ）、野菜（庄原市西城町）

・「しょうばら九日市」ホームページ出店者紹介コーナーもご覧下さい。
・出店希望の方は、楽笑座内事務局へご連絡下さい。(0824-72-8285)

第198回

ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

平成29年

7月9日 (日) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」
➔世界児童画作品展（世界児童画センター所蔵作品）
7月8日（土）～10（月） 10時～16時
- ★どら書房
➔月曜日と火曜日はお休み
- ★風龍
➔九日市スペシャル！餃子200円！
- ★楽笑座で「まかない食堂」「うた声喫茶」開催中

出店配置図



1 すけあくろう

2 ギャラリー三村

3 昭助 細田漬物
とらぢ
二八そば加工所
アーミュシュ
佐藤食販
さだっさ
リトルマーメイド
健康企画グループ

4 柳家
郷屋

5 ちくちくはうす玉手箱
工房アム

6 めだかの学校
ROOM OF KEIKO

7 お休み

8 アパレルゴトー
タツミ矢

9 猫犬ふりま

10 克國水産

11 前場衣料

12 お休み

13 吉備路花田FF
くんえん工房 香豚
ハナピラタケ広島
山本水産

14 阿波屋刃物

15 宮川屋
佐藤園芸
砂田海産
田崎屋

16 どんぐり〜ず
お福

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

